

看護基礎教育における「看護管理」の授業内容の実態と課題 — 新卒看護師を対象とした調査から —

滝島 紀子¹⁾

要 旨

(目的) 「看護管理」の授業内容を検討する手がかりを得る目的で、新卒看護師を対象にした調査から看護基礎教育における「看護管理」の授業内容の実態と課題を明らかにする。

(方法) 新卒看護師を対象に自作の質問紙による自由記述式での調査を行い、分析は、授業項目からみた学びは単純集計、授業内容からみた学びは記述内容をカテゴリー化、授業に対する意見や要望は記述内容を類似性に着目して分類した。

(結果・考察) 9割以上学んでいたのは「看護管理について」「安全管理について」であったが、課題は的確な概念の理解であった。7～8割学んでいたのは「チーム医療について」「看護の組織化について」、6～7割学んでいたのは「リーダーシップとマネジメント」、3～4割が学んでいたのは「サービスの評価について」などであり、課題は授業内容の充実を図ることであった。また、「看護必要度について」の課題は、授業では触れていないことが多いため、授業に取り込んでいくことであった。

キーワード：看護基礎教育 看護管理 授業内容

I はじめに

「看護管理」とは、「管理職のみの働きではない。スタッフナースにも管理的役割はある」¹⁾といわれていることから明らかなように、看護管理者のみに必要な概念ではなく、看護実践を行うすべての看護師に必要な概念である。

そのため、看護基礎教育の学修指針となる「看護師等養成所の運営に関する指導要領」の統合分野「看護の統合と実践」の留意点には、「看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容とする」²⁾と記されており、看護基礎教育における「看護管理」の学修の必要性が明示されている。

この明示を受け、いずれの看護基礎教育機関においても「科目名称や授業形態は異なるものの、実習も含めたすべての指定規則上の養成校で実施されることとなっている」³⁾といわれているように、看護管理の授業は行われているものと思われる。

ここで、看護基礎教育における看護管理の授業内

容を明らかにするにあたり、先の引用“科目名称や授業形態は異なるものの”の科目名称に注目して、各看護基礎教育機関がホームページで公開しているカリキュラムから「看護管理」に該当する科目名称をみると、「看護管理」「看護管理と研究」「看護管理と国際・災害看護」「看護管理と国際協力」「看護経営」「看護の統合と実践」などさまざまであった。このように科目名称が異なるということは、授業内容も異なるということになるため、看護基礎教育において行われている「看護管理」の授業内容はさまざまであることが推察される。

そこで、過去5年間の看護基礎教育における「看護管理」の授業内容についての文献をみると、看護大学のシラバス分析によって授業内容を明らかにした研究⁴⁾はあったが、学習当事者の学びから「看護管理」の授業内容を明らかにした研究はみあたらなかった。

このような実態を受け、今回は、「看護管理」の授業内容を検討する手がかりを得る目的で、学習当事者である新卒看護師を対象に看護基礎教育にお

1) 川崎市立看護短期大学

る「看護管理」の授業内容の実態と課題を明らかにした。

II 研究目的

「看護管理」の授業内容を検討する手がかりを得る目的で、新卒看護師を対象にした調査から看護基礎教育における「看護管理」の授業内容の実態と課題を明らかにする。

III 研究方法

1 研究デザイン

質的記述的研究

2 対象

50施設の新卒看護師 250名（看護専門学校卒業125名・看護大学卒業125名）

（50施設は、かつて研究協力依頼を行ったことのある300床以上の総合病院69施設のなかから無作為に抽出した）

3 期間

平成28年12月15日（木）～12月30日（金）

4 方法

自作の質問紙（無記名自記式）による調査。調査紙は、病院の看護部宛に郵送し、看護部に研究対象として該当する看護師への配布を依頼した。回収は、看護部から調査を依頼された看護師が、調査紙に添付した封筒にて自分の意志で回答・返送する方法を用いた。尚、調査の依頼にさいしては、研究の主旨と個人情報保護されることを書面で説明した。

5 内容

1) 最終的な看護基礎教育機関（選択：看護専門学校・看護大学）

（教育機関による授業内容の違いの有無をみる目的で最終的な教育機関を訊いた）

2) 看護基礎教育における「看護管理」の履修の有無（選択：有・無）

3) 2) で「有」の場合

（1）看護基礎教育における「看護管理」についての授業での学び

①授業項目からみた「看護管理」について

の学び（項目ごとに学びの有無を選択）

授業項目の設定は、「系統看護学講座 統合分野 看護管理」⁵⁾を参考にした。

②授業内容からみた「看護管理」についての学び（自由記述形式）

（2）「看護管理」の授業に対する意見・要望（自由記述形式）

6 分析内容

1)、2)、3)の(1)①は単純集計、3)の(1)②は、記述内容を1単位とし、その意味が損なわれることのないように留意してコード化した。その後、コード化の類似性・相違性に注目して比較検討を行ってカテゴリーを抽出し、カテゴリーの命名には、上記「系統看護学講座 統合分野 看護管理」の目次項目を参考にした。この一連の過程においては、研究者が繰り返し検討を行い、分析結果の妥当性の確保に努めた。また、3)の(2)の内容は、記述内容の類似性に注目して分類した。

7 倫理的配慮

対象者には、データを研究目的以外には使用しないこと、調査紙は無記名であるため個人は特定されないこと、調査紙に添付した封筒での調査紙の返送は自由意志に基づくものであり、調査紙の返送によって研究への同意とみなすことを文書で説明した。尚、本研究は、川崎市立看護短期大学研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号 第R75-1）。

IV 結果

1 対象の概要

調査紙の回収数は77、回収率は30.8%であった。内訳は、看護専門学校53、看護大学24であり、このうち「看護管理」の履修「無」は、看護専門学校4、看護大学1であった。

2 看護基礎教育における「看護管理」についての授業での学び

1) 授業項目からみた「看護管理」についての学び（表1）

授業項目からみた「看護管理」についての学び

で、総数・専門学校・大学別ともに学びが9割以上は「看護管理について」「安全管理について」、7～8割は「日常業務のマネジメントについて」「チーム医療について」「看護の組織化について」「情報のマネジメントについて」「組織におけるリスクマネジメントについて」、6～7割は「リーダーシップとマネジメントについて」、5～6割は「看護におけるマネジメントについて」「人材のマネジメントについて」「看護を取り巻く諸制度について」、4～5割は「物品のマネジメントについて」、3～4割は「施設・設備のマネジメントについて」「サービスの評価について」であった。この結果を専門学校卒業看護師の学びと大学卒業看護師の学びという視点でみると、「物品のマネジメントについて」以外の学びに違いはみられなかった。

2) 授業内容からみた「看護管理」についての学び (表2)

授業内容からみた「看護管理」についての学びのコード数は87であり、カテゴリーとしては、「看護管理の概念」「看護管理者の役割」「看護ケアのマネジメント」「看護管理の対象」「看護ケア提供システム」「安全管理」「チーム医療」「労働環境」「組織の構造・運営」「看護職の法制度」が抽出され、内容としては、「看護管理の概念」では看護の質を向上させるためにどう取り組んでいくか、「看護管理者の役割」では師長などの管理者の役割、「看護ケアのマネジメント」では患者と看護師の関係が中心であり、患者に提供するケアをマネジメントすること、「看護管理の対象」では人・物・金の管理について、「看護ケア提供システム」では看護提供シス

テム、「安全管理」では安全な医療の提供について、「チーム医療」ではチーム医療について、「労働環境」では看護師が仕事をしやすい環境をつくる、「組織の構造・運営」では看護部の組織についてなど、「看護職の法制度」では法律やルール・制度についてであった。

3 「看護管理」の授業に対する意見・要望 (表3)

「看護管理」の授業に対する意見・要望としては、記述内容から『看護管理』の授業の困難度・授業に対しての要望「授業で学んだ『看護管理』についての認識」「『看護管理』が理解しやすい授業の工夫」「仕事を通しての『看護管理』についての認識」「授業内容『看護必要度』についての要望」に分類され、内容としては、『看護管理』の授業の困難度・授業に対しての要望」では、ちょっと難しかった、看護管理は看護師になる上で知っておくことは必要だと感じるため、もっと学んでおきたかった、「授業で学んだ『看護管理』についての認識」では、まだ学生なのに看護長の仕事を学ぶ意義が理解できず、授業は難しかった、『看護管理』が理解しやすい授業の工夫」では、授業で学ぶより実際にみた方がわかりやすい。実習に行った時の見学と説明がわかりやすかった、「仕事を通しての『看護管理』についての認識」では、看護において看護管理はとても重要だと実感している、「授業内容『看護必要度』についての要望」では、就職してから看護必要度の重要性を知った。現場で重要視していることは授業で取り上げてほしいなどであった。

表1 授業項目からみた「看護管理」についての学び

項目	総数	専門学校	大学
「看護管理」について (看護管理とは何か、看護管理の目的など)	68 (94%)	47 (96%)	21 (91%)
看護におけるマネジメントについて (看護サービスのマネジメント、看護ケアのマネジメント)	38 (53%)	26 (53%)	12 (52%)
日常業務のマネジメントについて (看護業務基準、看護基準、看護手順、多重課題など)	53 (74%)	37 (76%)	16 (70%)
安全管理について (安全管理のしくみ、医療事故対策など)	68 (94%)	46 (94%)	22 (96%)
チーム医療について (他職種との連携・協働)	54 (75%)	37 (76%)	17 (74%)
看護の組織化について (看護部の理念、看護部門の組織、看護ケア提供システムなど)	55 (76%)	36 (73%)	19 (83%)
人材のマネジメントについて (キャリアディベロップメント、看護師の労働環境など)	37 (51%)	25 (51%)	12 (52%)
施設・設備のマネジメントについて (施設・設備環境の整備)	27 (38%)	17 (35%)	10 (43%)
物品のマネジメントについて (医薬品の取り扱い、医療機器の管理など)	33 (46%)	27 (55%)	6 (26%)
情報のマネジメントについて (情報の種類、プライバシーの保護、個人情報の保護など)	53 (74%)	36 (73%)	17 (74%)
組織におけるリスクマネジメントについて (リスクマネジメント、クライシスマネジメント、災害対策など)	54 (75%)	38 (78%)	16 (70%)
サービスの評価について (看護サービスの評価方法、医療サービスの評価方法)	26 (36%)	18 (37%)	8 (35%)
リーダーシップとマネジメントについて (リーダーシップの定義、リーダーシップに関する諸理論)	48 (67%)	30 (61%)	18 (78%)
看護を取り巻く諸制度について (看護職に関する法制度、看護職の教育制度、医療制度など)	40 (56%)	27 (55%)	13 (57%)

表2 授業内容からみた「看護管理」についての学び

	専門学校	大学
カテゴリ	コード	コード
看護管理の概念	<ul style="list-style-type: none"> 看護の質を向上させるためにどう取り組んでいくか 管理者だけでなく、看護師一人ひとりも日々仕事をする上で看護管理を行っている 看護管理とは、医療施設などで働く看護職が専門職業人として責任を持って質の高い看護を提供するうえで必要になる 	<ul style="list-style-type: none"> 組織全体を調整し、よりよい看護を提供する 看護を行うメンバーが患者により質の高いケアを実施できるようにする 安心、安全な医療のために組織化・マネジメントすること。役職のあるスタッフだけでなく、全スタッフにかかわるもの 働く上での環境や患者へのケアのマネジメントなど看護を取り巻く環境や体制を整えていく 看護管理とは、病院が機能するために看護の面でマネジメントし、改善していく
看護管理者の役割	<ul style="list-style-type: none"> 師長などの管理者の役割 師長、主任の役割 看護長に1日つく実習があり、看護長の仕事を学んだ 統合実習で師長さんのシャドーイングを行い、師長の仕事を学んだ 師長や主査はどのようなことをするのかを学んだ 看護局長はどんなことを行っているのかを学んだ 管理者はリーダーシップを発揮して、看護の組織を管理する 師長の役割は病棟やチームなどの運営を行うこと 管理者は組織の調整をする シフトの調整 スタッフの管理 	<ul style="list-style-type: none"> 師長業務、看護部長業務（看護師の人数調整や業務調整、ベッドコントロールなど） 管理者の仕事（マネジメント、病棟管理など） 看護管理者の立場と役割 師長やリーダー、主任の役割 師長や主任、副主任などは、チームの効率がよくなる方法を考えたり、業務だけでなく事務的な内容、メンバーの体調管理を行う 師長業務 管理者は組織のマネジメントを行う 管理者のリーダーシップとマネジメント 業務を円滑に進めるために役職に応じた役割が果たせるようにしていく
看護ケアのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 患者と看護師の関係が中心であり、患者に提供するケアをマネジメントすること 患者ケアの管理 患者一人一人の療養生活をサポートするための環境を整える 患者に看護ケアを提供するために行う仕事の過程 受け持ち患者への看護が円滑に進むようにすること 患者の看護で大切なのはケアのマネジメントである 	<ul style="list-style-type: none"> 看護過程を活用して看護実践を行う（看護の方法）
看護管理の対象	<ul style="list-style-type: none"> 人、物、金の管理について（2） ヒト、モノ、カネのマネジメント（3） 物品の管理について（2） 職員の配置について 病院経営のこと 多重業務での時間マネジメント（2） タイムマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> コスト管理
看護ケア提供システム	<ul style="list-style-type: none"> 機能別看護などの形態 モジュール、機能別看護など 看護提供システム（2） 継続看護のための看護方式 	<ul style="list-style-type: none"> 看護提供システム（2）
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全な医療の提供について 安全管理について（2） 危機管理（ヒヤリ・ハット、医療事故の防止など） 事故対策について 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理について 組織としての安全管理について リスク管理（ヒヤリ・ハット）
チーム医療	<ul style="list-style-type: none"> チーム医療について（2） 他部署との連携について 	<ul style="list-style-type: none"> チーム医療について
労働環境	<ul style="list-style-type: none"> 看護師が仕事しやすい環境をつくる 看護師の勤務体制 職場環境の調整など 勤務形態 看護を行っていく上で患者さんだけでなく、看護師である自分の健康管理も行っていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師が働きやすい環境をつくる
組織の構造・運営	<ul style="list-style-type: none"> 看護部の組織について（2） 看護単位について 組織づくり 看護部のシステムについて 組織について 病院の組織（2） 病院全体の運営・管理に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> 病院を運営するためには、看護部門でも役割分担をして体制を整え、病院全体が効率的に機能するようにしていく必要がある 看護部の病院内での位置関係について 医療職者のなかで最大集団である看護職者は、患者の回復や病院経営に貢献するために必要であるということ 組織の運営の仕方
看護職の法制度		<ul style="list-style-type: none"> 法律やルール、制度について

表3 「看護管理」の授業に対する意見・要望

専門学校	大学
「看護管理」の授業の困難度・授業に対しての要望	
<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと難しかった。 ・難しいが多かったため、もっと時間をかけて学べるとよいと思った。 ・学生だった当時は、イメージがわからず“難しいと感じた。 ・半日の看護管理の実習があったが、よくわからないまま終わってしまった。 ・授業時間数的にそれほど時間はとられていなかったため、濃い授業のイメージはない。 ・学生の時は難しくわからなかったが、実際に働いてから理解できることが多くあった。 ・看護管理は難しく、授業では理解できなかった。 ・学生の時、多くを学んだが、それが看護管理であることがわからなかったため、それが看護管理であるということ、看護管理とは何かを具体的に教えてもらいたかった。 ・看護管理は、看護師になる上で知っておくことは必要だと感じるため、もっと学んでおきたかった。 ・看護師になってから、看護師は患者の看護を行うだけでなく、組織の一員としての役割を果たすために必要なことが他にもあることに気づいた。学生の時に学べたらよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学4年の最後に“ちょっとやった”という印象。何を学んだかと訊かれると悩んでしまう、理解できているかと訊かれると自信のない科目である。 ・看護管理の授業はイメージがつきづらく、何を学んだか思い出すことは難しい。 ・チーム医療や安全対策に関する授業を基礎の時点で学ぶことができるのは、実習に臨むさいに役立つ部分もあるため、学生のときにしっかり学べるとよかった。 ・裏で支えてくれている職種が存在を前もって知っていれば、就職してからより多くの職種がかかわって仕事ができていると感じられるのかもしれない。
授業で学んだ「看護管理」についての認識	
<ul style="list-style-type: none"> ・まだ学生なのに看護長の仕事を学ぶ意義が理解できず、授業は難しかった。 ・師長の仕事にスタッフはどのような協力をしたらよいかを学べたらよかった。 ・看護管理をされる立場にあるメンバー看護師としての役割を理解することの大切さやリーダーシップに対してメンバーシップを発揮していくことの大切さを働いてから実感している。これらのことを学生のうちに学べたらよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生時代に”管理”について学ぶのは難しかった。しかし、看護管理についての知識は遠い将来必要になる可能性のある知識だと思う
「看護管理」が理解しやすい授業の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ・各々が組織の中の一員として行動するというのを認識し、自覚するのに大切な授業だと思う(シャドーイングがよかった)。 ・実際に現場で管理者として働いている人の講義は、とても興味深く印象的であった。 ・話をきいただけではわからなかったが、実習でポイントを絞って1つ1つ学んだ時はわかりやすかった。 ・授業で学ぶより実際にみた方がわかりやすい。実習に行った時の見学と説明がわかりやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いただけでは「看護管理」とは何かはわかりにくかったが、授業で事例検討形式のシミュレーション(疑似体験)を行ったときに「こういう役割があるんだ」ということが理解できたような気がした。 ・看護管理を学んだが、よくわからなかった。実習で学ぶとより看護管理について実感できると感じた。 ・看護管理を学ぶ前に、医療や看護に求められていることを1つ1つ掘り下げて考えたり、シャドーイングを行うとわかりやすかった。質の高い看護の提供には、看護管理の知識は大切だと思った。
仕事を通しての「看護管理」についての認識	
<ul style="list-style-type: none"> ・看護において、看護管理はとても重要だと実感している。 ・看護はチーム医療であり、リーダー・メンバーそれぞれ自分の役割を理解し、業務を遂行することが大切であると思う。日頃から自分の役割が何であるかを常に考えるようにしている。 ・部長、師長、副師長、リーダーにはそれぞれの役職があり、その方たちとスタッフが協力して業務を行っている。私たちは、看護過程を活用し、患者さんのQOLアップ、ADLアップを目指していくことが大切だと思う。看護管理と聞くと難しいが、日々の仕事に関係していると思うようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の時に、座学→統合実習でのシャドーイングを行っても、看護管理というものを理解しにくかった。看護師として働き始めてから、「組織」「管理」という面での看護師の立場を理解することができたような気がする。 ・学生の時は、あまり実感はなかったが、実際に働いてみて、学んだことが理解できるようになった感じがする。
授業内容「看護必要度」についての要望	
<ul style="list-style-type: none"> ・入職して看護必要度についてもっと詳しく学んでいたらと感じた。現場では、どのように活用、管理されているのか学んでいたらよかったと思う。 ・看護必要度など仕事で必要になることは、事前にわかっていると実際の現場により活かすことができると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職してから「看護必要度」の重要性を知った。現場で重要視していることは、授業で取り上げて欲しい。

V 考察

看護基礎教育における「看護管理」の授業内容の実態と課題を「授業項目からみた『看護管理』についての学び」を軸として、現在、想起できる授業内容は、授業で特に学んだ内容といえるのではないかという観点から訊いた「授業内容からみた『看護管理』についての学び（以下、「授業での学び」とする）」、ならびに「『看護管理』の授業に対する意見・要望（以下、「意見」とする）」から考察していく。また、考察は、専門学校卒業看護師と大学卒業看護師の「授業項目からみた『看護管理』についての学び」の結果に「物品のマネジメントについて」以外の違いはみられなかったため、併せて行っていく。

授業項目からみた学びが9割以上であった「看護管理について」「安全管理について」、7～8割であった「組織におけるリスクマネジメントについて」みていく。

「看護管理について」は、看護管理とは「すべての看護師の看護実践能力の重要な側面である」⁶⁾「今日では看護管理を知らずしては、看護そのものすら語ることはできない状況になっていることを十分に認識する必要がある」⁷⁾といわれているように管理者のみに必要な概念ではなく、看護実践を行うすべての看護師に必要な概念である。この概念を受けて、授業での学び「看護管理の概念」をみると、<管理者だけではなく、看護師一人ひとりも日々仕事をする上で看護管理を行っている>などが挙げられていることから、おおよそ学べていると推察される。しかし、意見「授業で学んだ『看護管理』についての認識」をみると、<まだ学生なのに看護長の仕事を学ぶ意義が理解できず、授業は難しかった>など看護管理は管理者に必要な概念と認識している場合のあることが明らかになった。看護管理とは何かを的確に把握することで、効果的・効率的な看護実践を行ううえでの手がかりを「看護管理」に求めることができるため、看護管理の概念が的確に理解できるようにしていくことが課題であると考ええる。

「安全管理について」「組織におけるリスクマネジメントについて」は、安全管理の概念とリスクマネジメントの概念は「事故防止を図ることにおいては共通であるが、その根底にある考え方は異なる」⁸⁾といわれており、安全管理とは「看護ケアの提

供に際して、安全を確保するために行うマネジメント」⁹⁾、リスクマネジメントとは「組織の利益をまもる、もしくは損害を最小限にするためのマネジメント」¹⁰⁾といわれている。この概念を受けて、授業での学び「安全管理」をみると、<安全管理について>などが挙げられていることから、おおよそ学べていると考える。しかし、<危機管理（ヒヤリ・ハット、医療事故の防止など）><リスク管理（ヒヤリ・ハット）>という記述がみられ、項目がリスクマネジメント、項目の具体的内容が安全管理になっていることから、リスクマネジメントの概念と安全管理の概念の区別がついていないのではないかと推察される。この2つの概念の区別ができるようになることで、看護ケアの提供における安全だけではなく、組織的な取り組みという観点での安全も認識できるようになると思われるため、安全管理とリスクマネジメントという2つの概念の区別ができるようにしていくことが課題であると考ええる。

授業項目からみた学びが7～8割であった「日常業務のマネジメントについて」「チーム医療について」「看護の組織化について」みていく。

「日常業務のマネジメントについて」は、日常業務のマネジメントとは、看護業務の実践に関することであり、看護業務基準、看護基準、看護手順、多重課題などが含まれる。授業での学びにこれらについての記述はなかったが、授業項目からみた学びが7～8割であることから、おおよそ学べているものと推察される。しかし、看護業務基準とは「看護実践のための行動指針や実践の評価のための枠組み」¹¹⁾、看護基準とは「その病院が提供する看護の水準を示し、実践する看護のよりどころとなるもの」¹²⁾、看護手順とは「個々の処置、ケアなどの準備から後始末までを順序立てて記述したマニュアル」¹³⁾といわれているように看護実践を支えることがらであり、これらは効果的・効率的な看護実践を行ううえでのよりどころとなるため、これらの授業内容の充実を図っていくことが課題であると考ええる。

「チーム医療について」は、授業での学び「チーム医療」をみると、<チーム医療><他部署との連携>などが挙げられていることからおおよそ学べていると推察される。しかし、地域包括ケアに対応できる看護師の育成という観点でみた場合、「医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担し

つつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」¹⁴⁾ いわれているチーム医療についての理解がよりいっそう重要になってくるため、チーム医療についての授業内容の充実を図っていくことが課題であると考え。

「看護の組織化について」は、授業での学び「組織について」「看護ケア提供システム」をみると、<看護部の組織について><看護提供システム>などが挙げられていることからおおよそ学べていると推察されるが、看護部の理念についての記述はなかった。看護の組織化の要は、「組織化は、理念の実現のための方法でもあり、組織の理念実現のために、どのような組織をつくるのか、どのようなしくみをつくるのか」¹⁵⁾ であるといわれていることから明らかなように看護部の理念であり、これは看護師として仕事を行うさいのよりどころとなるため、看護部の理念についての授業内容の充実を図っていくことが課題であると考え。

授業項目からみた学びが6～7割であった「リーダーシップとマネジメントについて」みていく。

「リーダーシップとマネジメントについて」は、授業での学び「看護管理者の役割」にリーダーシップという言葉は入っていたが、リーダーシップそのものについての記述はなかった。リーダーシップとは「集団に目標達成を促すよう影響を与える能力」¹⁶⁾ と言われている。この能力は、管理者ばかりでなく、「看護師として実践経験を積み、冷静な判断と行動ができるようになると、看護ケアチームのリーダーを任されることが多い」¹⁷⁾ といわれているように、スタッフナースにも必要になる。このようなリーダーシップの概念が理解できていると、どのような立場のリーダーであってもリーダーとして目標達成へ向けての効果的なかかわりが可能になると思われるため、リーダーシップの概念についての授業内容の充実を図っていくことが課題であると考え。

授業項目からみた学びが7～8割であった「情報のマネジメントについて」、5～6割であった「看護におけるマネジメントについて」「人材のマネジメントについて」「看護を取り巻く諸制度について」、3～4割であった「施設・設備のマネジメントについて」「サービスの評価について」みていく。

「看護におけるマネジメントについて」は、看護

におけるマネジメントには「看護職1人ひとりが行う対象者へのケアのマネジメントと、看護職を統括し、組織として目的を達成する看護サービスのマネジメント」¹⁸⁾ がある。授業での学びとしては「看護ケアのマネジメント」はあったが、看護サービスのマネジメントの記述はなかった。これは、看護基礎教育においては、看護実践における個別性を重要視しているという理由から、<患者と看護師の関係が中心であり、患者に提供するケアをマネジメントすること>などが挙げられているように「看護ケアのマネジメント」は強調されても、「看護ケアのマネジメント」を支える「看護サービスのマネジメント」の強調が弱くなっているためではないかと考える。質の高い看護の提供においては、「看護サービスのマネジメント」を土台とした「看護ケアのマネジメント」という考え方がわかることによって、「看護サービスのマネジメント」を資源とした「看護ケアのマネジメント」が可能になり、ひいては、質の高い看護の提供が可能になるため、「看護サービスのマネジメント」の概念についての授業内容の充実を図っていくことが課題であると考え。

「人材のマネジメントについて」「物品のマネジメントについて」「情報のマネジメントについて」

「施設・設備のマネジメントについて」は、「看護管理の対象は、ヒト・モノ・カネや時間であり、現在では『情報』もその1つである」¹⁹⁾ といわれているように、看護管理の対象には人・物・金・時間・情報があるが、授業での学び「看護管理の対象」には、<人・物・金の管理について><タイムマネジメント>など情報以外の4つが挙げられていることからおおよそ学べていると推察される。しかし、情報の管理については「2005年より個人情報保護法が施行された。施行された個人情報保護法をもとに、各施設で具体的に規定を定める必要がある」²⁰⁾ といわれていることから、看護師として個人情報の取り扱いに関する規定を理解するさいは、その根底にある情報管理の概念についての理解が必要になるため、情報のマネジメントの概念についての授業内容の充実を図っていくことが課題であると考え。

「サービスの評価について」は、3～4割の学びであり、授業での学びの記述はなかったことから、授業ではあまり触れていないのではないかと推察される。サービスの評価については「医療や看護の質

をある基準をもって組織的に評価し、改善につないでいく統合したシステムが開発され導入されるようになり、質の向上を目標とした「評価」「保証」「改善」という対策が1つのシステムとしてとらえられるようになった²¹⁾、「評価の対象として、提供したサービスの質の評価、費用や効率性などの経済的評価があり、評価者としては、サービス利用者による評価、サービス提供者による自己評価、専門家による第3者評価などがある」²²⁾といわれている。このことから明らかなように評価の目的は、質の高い看護の提供であり、評価結果は、改善へとつなげていくことになるため、このような評価の目的や意義が理解できると、看護の質を意識した仕事へとつながっていくのではないかと思われるため、看護サービス評価についての内容を授業に取り込んでいくことが課題であると考ええる。

「看護を取り巻く諸制度について」は、授業での学びの記述はなかった。諸制度については、「チーム医療の中核をなす専門職には、名称や業務、免許等について規定した法律が存在する、専門職は法の定めを遵守し、法に守られ、法の範囲内で業務を行う」²³⁾といわれていることから、看護業務を行うさいには、諸制度を知っていることが重要になる。諸制度を知っていることで、看護師は対象のどんな側面にかかわるのかがよりいっそう明確になるだけでなく、看護独自の判断でできること・できないことの判別もでき、自律的な看護実践を行うことが可能になるため、看護を取り巻く諸制度についての授業内容の充実を図っていくことが課題であると考ええる。

ここで、意見をみると、「授業内容『看護必要度』についての要望」があった。これについては、看護基礎教育において看護教員が授業を担当する場合、看護必要度の概念を理解できるようにすることはできても、看護必要度の活用の実際までわかるようにすることは困難であると考ええる。なぜならば、看護必要度とは「対象者に必要な、対象者に提供されるべき看護サービスの種類や量の必要量。対象の状態のデータを用いて推定し、看護サービスの提供時間であらわすもの」²⁴⁾といわれているように、看護必要度の事例を作成し、演習を行うことが難しいからである。このような状況であっても、看護必要度は看護業務において不可欠なものであるため、看護必要度の概念だけでも理解できるよう看護必要

度についての内容を授業に取り込んでいくことが課題であると考ええる。

また、『看護管理』の授業の困難度・授業に対しての要望」をみると、看護管理をもっと学んでおけばよかったという意見がある反面、看護管理の授業は難しいという意見もあった。この看護管理の授業は難しいという意見に対する解決の手がかりは、「『看護管理』が理解しやすい授業の工夫」にあり、「看護管理」の理解の助けになるものとして、管理者のシャドウイングやシミュレーション、実習での実際的な学びなどが挙げられていた。今後は、これらの工夫を授業に取り入れ、わかりやすい看護管理の授業となるよう努めていくことが課題であると考ええる。

VI 研究の限界と今後の課題

回収数が約30%であったため、今後は、さらに調査対象者を増やして結果の妥当性を高めていくことである。

VII 結論

今回、基礎看護教育における「看護管理」の授業内容の実態と課題としては、以下のことが明らかになった。

- 1 9割以上が学んでいたのは「看護管理について」「安全管理について」であり、いずれにおいても、課題は、的確な概念の理解ができるようにすること。
- 2 7～8割が学んでいたのは「日常業務のマネジメントについて」「チーム医療について」「看護の組織化について」「情報のマネジメントについて」「組織におけるリスクマネジメントについて」、6～7割は「リーダーシップとマネジメントについて」、5～6割は「看護におけるマネジメントについて」「人材のマネジメントについて」「看護を取り巻く諸制度について」、4～5割は「物品のマネジメントについて」、3～4割は「施設・設備のマネジメントについて」であり、いずれにおいても、課題は、授業内容の充実を図っていくこと。
- 3 3～4割が学んでいた「サービスの評価について」、意見にあった「看護必要度について」の課題は、これらの内容を授業に取り込んでいくこと。

4 全体的な課題としては、看護業務に不可欠な概念（ことがら）については、理解できるようにしていくこと、「看護管理」に対しては難しいとい

う認識傾向が明らかになったため、わかりやすい「看護管理」の授業となるよう努めていくこと。

引用文献

- 1) 矢野正子編修. 看護管理 看護研究 看護制度. メヂカルフレンド社, 2015, P. 40.
- 2) 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書. 2011, P. 23.
- 3) 中西睦子ほか編集. 看護サービス管理 第4版. 医学書院, 2014, P. 267.
- 4) 鈴木美恵子ほか. 看護基礎教育における「看護管理」の授業内容の検討. 川崎市立看護短期大学紀要 2014, P. 77-81.
- 5) 上泉和子ほか. 統合分野 看護管理 看護の統合と実践1. 医学書院, 2015, P. 3-6.
- 6) 村島さい子ほか編集. 看護管理. メディカ出版, 2013, P. 112.
- 7) 小林美亜編修. 看護管理. 学研, 2013, P. 6.
- 8) 上泉和子ほか. 看護管理. 医学書院, 2015, P. 136.
- 9) 上泉和子ほか. 看護管理. 医学書院, 2015, P. 25.
- 10) 上泉和子ほか. 看護管理. 医学書院, 2015, P. 136.
- 11) 上泉和子ほか. 統合分野 看護管理 看護の統合と実践1. 医学書院, 2015, P. 61.
- 12) 矢野正子編修. 看護管理 看護研究 看護制度. メヂカルフレンド社, 2015, P. 15.
- 13) 矢野正子編修. 看護管理 看護研究 看護制度. メヂカルフレンド社, 2015, P. 15.
- 14) 中西睦子ほか編集. 看護サービス管理 第4版. 医学書院, 2014, P. 105.
- 15) 上泉和子ほか. 看護管理. 医学書院, 2015, P. 83.
- 16) 上泉和子ほか. 統合分野 看護管理 看護の統合と実践1. 医学書院, 2015, P. 192.
- 17) 小林美亜編修. 看護管理. 学研, 2013, P. 77.
- 18) 上泉和子ほか. 看護管理. 医学書院, 2015, P. 13.
- 19) 小林美亜編修. 看護管理. 学研, 2013, P. 5.
- 20) 上泉和子編修. 看護ユニットマネジメント. 医学書院, 2006, P. 168.
- 21) 上泉和子編修. 看護ユニットマネジメント. 医学書院, 2006, P. 25.
- 22) 上泉和子ほか. 統合分野 看護管理 看護の統合と実践1. 医学書院, 2015, P. 145.
- 23) 矢野正子編修. 看護管理 看護研究 看護制度. メヂカルフレンド社, 2015, P. 9.
- 24) 上泉和子ほか. 統合分野 看護管理 看護の統合と実践1. 医学書院, 2015, P. 255.